

五感に楽しいまちづくりを 訪ねて

作家／五感生活研究所
山下柚実

「感覚環境のまちづくり」へ

- 五感・感覚に楽しい・心地よいまちとは、いったいどんな場所？
- 個性的なまちづくりの事例から、何を学ぶ？

事例紹介

- 1 岐阜県・郡上八幡(郡上市八幡町)
水とふれあう、水縁空間
- 2 大阪市・平野区
「平野音博物館」と音風景
- 3 北海道・富良野
かおり風景と、五感による環境教育
- 4 滋賀県・彦根市
NPO五環生活によるまちづくり

1. 吉田川と長良川が合流し、吉田川沿いに発達した 古い城下町「郡上八幡」



人口1万6千人のまちに、観光客が年に140万人もやってくるのは.....





























湧水をためる「水舟」



日常の中で活用



カワド・せんたく場



名水100選「宗祇水」



水と直接「ふれあう」空間が
あふれているまち・郡上八幡

水 = 五感体験

- 水を飲む
- 水で涼む
- 水で遊ぶ
- 水で洗う
- 水で作る
- 水でつながる
- 水の音を楽しむ

「水のまち」の出発点

水とふれあう独特の生活の形を

「『文明的な価値があるものだ』と申し上げても、なかなか地元の人には信じてもらえなかった。そのことが、水環境や優れたシステムを守ろうとすることへの障害にもなっていました。

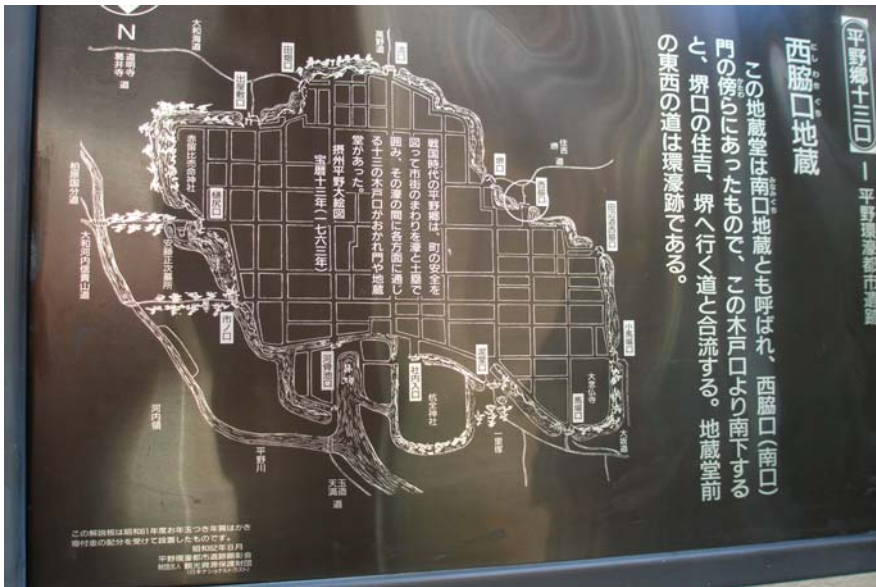
ところが1985年(昭和60年)に八幡が名水百選に選ばれたことで、行政と住民が連帯して、水を一つのテーマにまちづくりが始まったのです」

(多摩美・環境デザイン学科 渡部一二教授)

2. 大阪市平野区



壕で囲まれていた自治都市・平野郷



「祭りちょうちんが似合うまちなみ」





※2階へ 各館の曜日・開館時間を上記表でご覧下さい。(毎月第4日曜日は美術館休館日のため見学できません)

平野郷の歴史博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	自転車博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	農産物博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	インスタカメラ 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	岡田屋さん博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	くらしの博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日	園守の自然博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日 休館日 毎月第4日曜日
--	---	---	--	---	--	---

平野町くろみ博物館

平野町くろみ博物館 平野郷の歴史を伝える

くらしの博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	かたの博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	自転車博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	インスタカメラ 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	園守の自然博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	平野の自然博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日	園守の自然博物館 平野郷の歴史を伝える 開館日 毎月第1・3日曜日
---	--	--	---	--	--	--

※毎月第4日曜日は美術館休館日のため見学できません

聞き耳処



全興寺



平野の音博物館



廃線になった南海電車の音



地下の水琴窟空間



大念仏寺



大数珠繰り



お堂の中に数珠の音が響く



「聞き耳処」

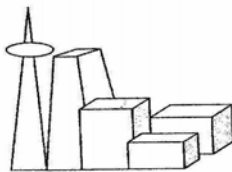


聞き耳本舗・聞き耳処

平野の様々な場所にちなんだ音を聞くことのできる
サテライト博物館

- 全興寺
- 杭全神社
- 染と織・まつや
- 定食の店・京政食堂
- 和風喫茶・くろせ
- 大念仏寺
- 木田呉服店

形を見せる「観光」から、
目に見えない「感風」を大切にした
まちづくりへ



観光・・・ひかり（かたち）を眺（み）せる



感風・・・町を構成している見えぬものを感（か）じてほしい

実は、まちづくりにとっては、目に見えるものより、目に見えないものの方が大切。これらは年月の積み重ねが必要。

平野から学ぶこと

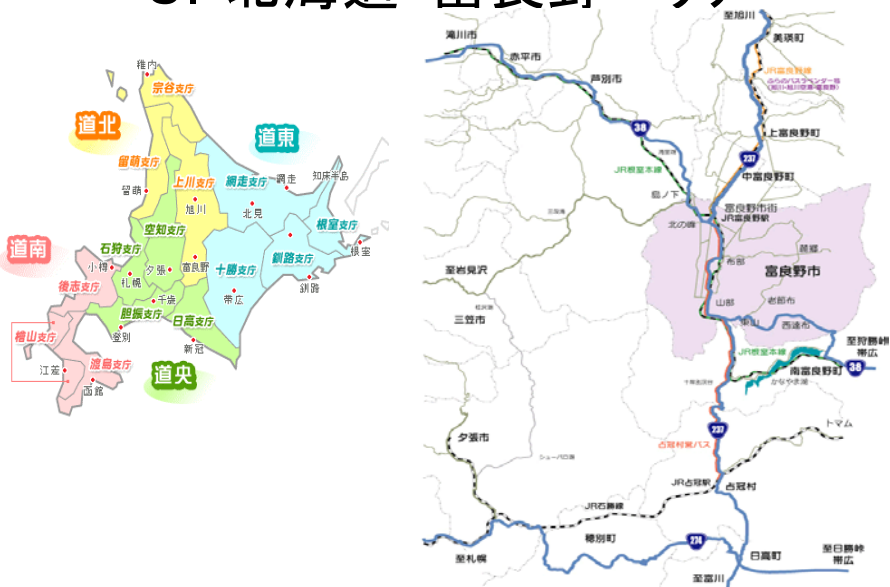
- まちづくりのために「特別な音」を創ったわけではないということ。

平野の暮らしの中にある「音」に気付き、その音を大切に保存していこうと考え、まちづくりのテーマの一つにすることからスタート。

町から聞こえてくる暮らしの音を記録し、繋ぎあわせていく中から、「平野の音博物館」は生まれた。

→どのまちにでも可能性がある

3. 北海道・富良野エリア



かおり風景100選
「ふらののラベンダー畑」







ゴルフ場を花のガーデンに





NPO「C. C. C富良野自然塾」



「裸足の道」



石の地球



地球の道







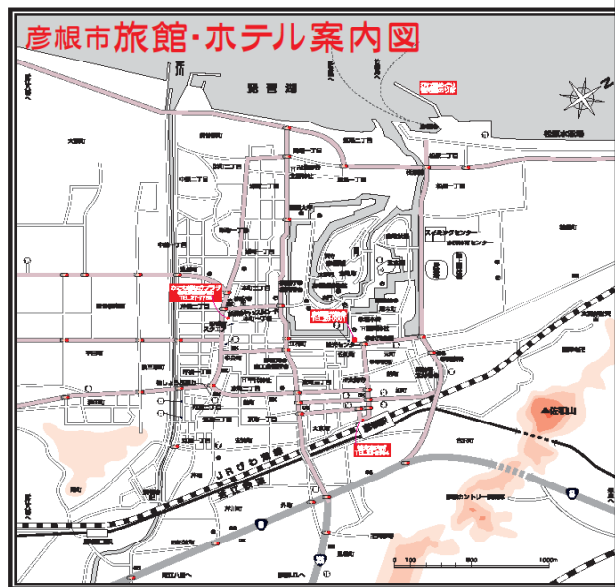
50年かけて15万本を植え森に還す



富良野から学んだこと

- ・独自の風景、植生や空の色、花々の香りといった、富良野ならではの五感・感覚に訴えかける豊かさを大切に、観光資源として育ててきた
- ・大型レジャー施設中心の観光事業から、五感を活用した環境教育や、環境ツーリズムへの転換に取り組んでいる

4. 滋賀県彦根市





残したい音風景100選
「彦根城の時報鐘と虫の音」





「キャスルロード」の景観整備 道幅が広がり、町並みが整えられた





町並み整備が完成した後
さらにまちづくりを充実させるための取り組みとして、
産・学・行が手を組んで
NPO五環生活の活動が始まった





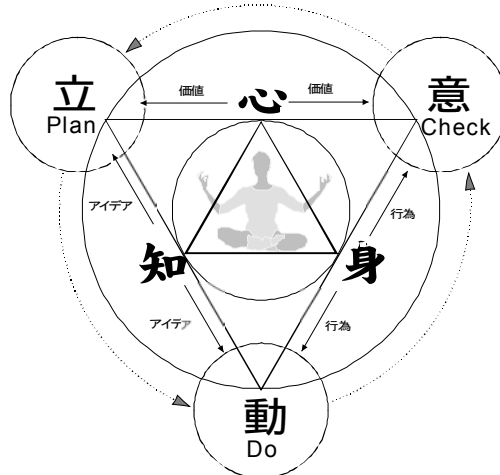
NPO五環生活の活動

ベロタクシー事業部、カフェ事業部、
エコツアー事業部、ワークショップ事業部
まっくらカフェ、桶風呂

「まちづくりは身体参加」

(滋賀県立大学・近藤隆二郎准教授)

身体的参加
知識偏重 → 身体性を忘れつつあるからこそ
「五感マップ」「五感ワークショップ」を
(近藤准教授)



中山道・鳥居本宿を赤く彩る「百彩」







彦根から学んだこと

- ハードウェア中心の、町並み景観整備だけでは まちづくりは完結しない。
- 五感・感覚を使って、まちを楽しむ「ソフトウェア」を発見する
- 「俯瞰・上から見下ろす」鳥の目による都市計画から、
身体の感覚的体験を積み上げていく、
パッチワーク的なまちづくりへ

4つの事例から見えてきたこと

- **郡上八幡**—自分たちが暮らすまちの魅力を発見することの大切さ
- **平野**—日常的な暮らしの中に、まちづくりのテーマは見つかる
- **富良野**—自然環境を活用した、新しいまちづくりへの転換
- **彦根**—まちを楽しむために、新しいソフトウェアを産学行で創造

共通点

五感・感覚を働かせることで、
「まちづくり」の可能性が開けていった

これから……
光を使ったまちづくりの事例へ

